

翔

2007 April

No.185

百万石蝶談会



2006年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査

日吉芳朗・日吉南賀子

2006年は、全国的にみて蝶の発生が好ましくなかったようであるが、それに反してアサギマダラは例年を上回る発生と移動があったようである。そのため、マーキングも順調に行われ、再捕獲数もかなりの数にのぼったと言われている。輪島市のマーキング頭数は、前年をはるかに越えるものであったにもかかわらず、県外での再捕獲がまったくなかった。このことは、過去6年の経験から不思議なことに思われた。その原因の解明は困難であるが、筆者の推測については後述する。

海岸でのマーキングの際に、他県から飛来した個体の再捕獲はこれまで一度もなかったが、本年は袖ヶ浜で、大分県姫島からの3個体を再捕獲できたことは特筆すべきことと思われる。

■初夏の海岸でのマーキング

2005年に続いて2006年も、海岸マーキングの主要ポイントは袖ヶ浜であった。5月24日にマークした1♂を皮切りに、6月20日の4♂マークまでの間に、ほぼ連日その姿をみせていた。中でも、5月27日に21頭、6月8日に24頭と20頭を越え、6月10日には実に59頭にマークすることができた。マーク個体の鮮度は、ほぼ70%が、新鮮(N)であり、ほぼ30%が中程度(M)であったが、翅の破損個体が40%を占めた。6月10日と12日に袖ヶ浜で、それぞれ既交尾の1♀にマークした。前者は、カモノハシの茎にぶら下がっており、15分間ばかりそのままの状態だったため捕虫したが、腹部の状態や蜜臭がなかったことからスナビキソウで吸蜜していなかったと判断した。後者は、スナビキソウの花で口吻をのばして吸蜜しており、腹部は蜜で飽満状態であった。そしてまた、袖ヶ浜で3♂が同一地点に5日間滞在していた。うち1頭は、5月25日から30日まで、2頭は5月27日から6月1日までであった。いずれも飛来が始まった時期であるが、その間に捕虫することがなかったことから他所へ移動し、戻ってきた可能性もないとはいえない。なお、大川浜でも7頭にマークした。これらの地での、県内と県外の再捕獲記録を以下に記す。

□2006年5月25日 輪島市大川浜、日吉芳朗 放蝶

→ 2006年5月27日 羽咋郡志賀町鹿頭、松井正人 再捕獲

□2006年5月27日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗 放蝶

→ 2006年6月3日 輪島市門前町鹿磯、松井正人 再捕獲

□2006年5月31日 珠洲市木ノ浦、松井正人 放蝶

→ 2006年6月4日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗 再捕獲

- 2006年5月15日 大分県東国東郡姫島村、中城信三郎 放蝶
→ 2006年6月4日 輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗 再捕獲
- 2006年5月21日 大分県東国東郡姫島村、栗田昌裕 放蝶
→ 2006年6月6日 輪島市袖ヶ浜、日吉南賀子 再捕獲
- 2006年6月 1日 大分県東国東郡姫島村、山下莉奈 放蝶
→ 2006年6月10日、輪島市袖ヶ浜、日吉芳朗 再捕獲

姫島から袖ヶ浜までの直線距離は約630kmであり、とくに6月10日の再捕獲個体は9日間の短期間で移動したことになり、またマーク者が小学生であったことは注目される。

表-1. 2006年の輪島市における5月～6月のマーキング頭数

月日	時刻	計(内訳)	袖ヶ浜	大川浜	鉢伏山	温度	天気
5月24日	9:52	1(1♂)		1♂		17	曇
5月25日	7:25	1(1♂)	1♂			18	晴
5月25日	8:23	1(1♂)		1♂		19	晴
5月25日	11:02~11:07	3(3♂)	3♂			21	晴
5月26日	6:40	1(1♂)	1♂			16	曇
5月27日	7:01~ 7:48	19(19♂)	19♂			22	晴
5月27日	10:57~11:04	2(2♂)	2♂			23	晴
5月28日	16:23	1(1♂)	1♂			23	曇
5月30日	7:05~ 7:23	2(2♂)	2♂			17	曇
5月30日	9:15~ 9:28	3(3♂)	3♂			21	曇
5月31日	15:57~16:03	2(2♂)	2♂			23	曇
6月1日	6:55~ 7:00	2(2♂)	2♂			19	曇
6月2日	8:32~ 8:53	3(3♂)	3♂			20	曇
6月4日	8:27~ 9:25	5(5♂)	5♂			20	曇
6月4日	13:35~13:47	2(2♂)			2♂	23	曇
6月4日	16:00~16:13	3(3♂)	3♂			24	晴
6月5日	8:31~ 9:32	8(8♂)	8♂			22	晴
6月6日	7:20~ 7:21	2(2♂)	2♂			19	霧
6月6日	16:22	1(1♂)	1♂			20	曇
6月7日	10:55~11:04	2(2♂)	2♂			21	晴
6月8日	6:32~ 6:52	7(7♂)	7♂			19	曇
6月8日	16:22~17:04	17(17♂)	17♂			24	曇
6月10日	6:20~ 8:59	45(45♂)	45♂			19	曇
6月10日	11:53~12:35	12(12♂)	12♂			24	晴
6月10日	15:59~16:30	2(1♂1♀)	1♂1♀			23	晴
6月11日	8:32~ 8:54	4(4♂)	4♂			22	曇
6月11日	9:57~10:12	5(5♂)		5♂		23	曇
6月12日	8:53~ 9:27	6(5♂1♀)	5♂1♀			26	晴
6月13日	7:00~ 7:16	7(7♂)	7♂			20	曇
6月14日	6:34~ 6:53	6(6♂)	6♂			21	晴
6月14日	15:31	1(1♂)	1♂			23	晴
6月18日	5:54~ 6:15	7(7♂)	7♂			20	曇
6月19日	5:40~ 6:15	8(8♂)	8♂			21	曇
6月20日	5:33~ 6:11	4(4♂)	4♂			18	曇
計		195(193♂2♀)	184♂2♀	7♂	2♂		

■鉢伏山、高洲山、宝立山の状況

2005年の報告（日吉芳朗・日吉南賀子、2006）では、それまで輪島市の重要マーキングポイントだった鉢伏山で、ヨツバヒヨドリが全滅状態になったため、マーキングが不可能になったことを記した。しかし、2006年になると、高洲山から鉢伏山へ抜ける林道高鉢線の鉢伏山出口付近の、わずか15mばかりの木陰の区間が、好ポイントになっていることがわかった。そこに咲く10本に満たないヨツバヒヨドリの花に、道路わきの谷から吹き上げられたように現れたアサギマダラが、群れをなして集まり、吸蜜し、かつ周辺の木の枝で休息した。このポイントには、8月に入ると同時に突然その姿をみせ、3日には52頭、4日には60頭、6日には62頭にマークできた。しかし、8月7日には輪島市による草刈が行われ、万事休してしまった。

一方、高洲山頂上では、近年にはほとんどその姿を見ることができなかったが、頂上から40mばかり下った通称雨乞池の周辺に、一時的ながらかなりの数のアサギマダラが現れた。この地点はブナ林の中にあり、ヨツバヒヨドリはほとんど見られないことから休息所とみられる。雨乞池で、8～9日の両日、それぞれ21頭と15頭にマークできたのは、高鉢線の草刈により、こちらへ移動したことも考えられる。なお、宝立山も含めてこれら3山の個体のほとんどは、たいへん新鮮であり、♀の80%は未交尾であった。

なお、これら両地点でのマーキングが主になったため、最盛期の宝立山でのマーキングは、機会を失ってしまった。

これらの地でのマーキング個体が、県外で1頭も再捕獲されなかったことに関して、その原因の一つが、2006年の気象状況にあったのではないかと考えている。全国的にみて7月下旬は、梅雨前線の停滞で雨の日が多かったものの、7月末日の梅雨明け宣言とともに、8月に入ると晴れて、気温もかなり高くなり、いわば酷暑の日が続き、降水量もたいへん少なく、この状態が9月に入るまで継続した。そのため、アサギマダラは、涼を求めて東北方面へ競って例年以上に北上したが、かの地でのマーキング同好者が少なかったことが考えられる。9月に入ると、気温は平年並みになったものの、18日から19日にかけて日本海を通過した台風13号により、日本海か太平洋かは定かでないが、海上へ吹き飛ばされた個体が多かったのではないかとと思われる。

■舳倉島の状況

2006年も例年のごとく、5月下旬と9月下旬に少数ながら目撃されているが、9月7日の目撃記録は、これまでにない早い記録である。なお、筆者が渡島した9月28日には、その姿を見ることができなかった。

最後に、2006年の気象状況についてご教示くださった金沢地方気象台防災業務課の日吉純一氏、舳倉島の調査にご協力くださった後藤義夫、浅井利明、中村暢男の諸氏、民宿つかさと民宿つきの皆さんに、厚くお礼を申し上げます。

表-2. 2006年の輪島市における7月～9月のマーキング頭数

月日	時刻	計(内訳)	鉢伏山	高洲山	宝立山	温度	天気
7月26日	9:03～ 9:48	5(5♂)			5♂	22	曇
7月31日	8:03～ 9:43	4(3♂ 1♀)			3♂1♀	22	晴
8月1日	8:46～ 9:25	2(2♂)		2♂		26	晴
8月1日	9:40～10:35	18(13♂ 5♀)	13♂ 5♀			26	晴
8月2日	7:26	1(1♂)		1♂		23	晴
8月2日	7:35～ 9:06	23(12♂ 11♀)	12♂ 11♀			23	晴
8月3日	7:19～ 7:24	4(3♂ 1♀)	2♂	1♂ 1♀		24	晴
8月3日	7:38～10:41	50(26♂ 24♀)	26♂ 24♀			24	晴
8月4日	7:11～ 7:12	2(2♀)		2♀		23	晴
8月4日	7:35～11:05	60(30♂ 30♀)	30♂ 30♀			23	晴
8月5日	6:24、 7:47	2(2♂)		2♂		22	晴
8月5日	6:44～ 7:40	20(11♂ 9♀)	11♂ 9♀			22	晴
8月6日	6:45	1(1♂)		1♂		23	晴
8月6日	6:58～11:00	62(44♂ 18♀)	44♂ 18♀			23	晴
8月6日	11:14～11:22	4(4♂)		4♂		23	晴
8月7日	6:55～ 8:46	26(17♂ 9♀)	17♂ 9♀			24	晴
8月7日	9:04	1(1♀)		1♀		24	晴
8月8日	6:52～ 7:38	7(4♂ 3♀)	4♂ 3♀			24	晴
8月8日	8:16～ 9:45	21(15♂ 6♀)		15♂ 6♀		24	晴
8月9日	7:18～ 8:27	15(8♂ 7♀)		8♂ 7♀		24	曇
8月13日	7:40～ 8:36	4(2♂ 2♀)			2♂2♀	24	曇
8月13日	10:00～10:05	2(2♂)		2♂		24	曇
8月14日	9:58～10:09	3(2♂ 1♀)	2♂ 1♀			24	曇
8月31日	9:30～ 9:52	3(3♀)			3♀	22	曇
9月3日	8:42～ 9:35	3(2♂ 1♀)			2♂1♀	22	晴
9月15日	8:38～ 8:57	4(2♂ 2♀)			2♂2♀	20	曇
計		347(211♂136♀)	161♂110♀	36♂17♀	14♂9♀		

表-3. 2006年の舳倉島におけるアサギマダラの観察記録

月日	観察時間	観察数	観察地	観察者	天気
5月26日	14:05	1頭目撃	シラスナ遺跡	後藤 義夫	曇
5月27日	5:10	1頭目撃	観音堂	後藤 義夫	晴
5月27日	5:46	1頭目撃	八坂神社	後藤 義夫	晴
9月7日	10:45	1頭目撃	西の海岸	後藤 義夫	曇
9月21日	12:40	1頭目撃	中の道	浅井 利明	晴
9月23日	12:00	1頭目撃		中村 暢男	晴
9月24日	10:00	1頭目撃		浅井 利明	晴

《参考文献》

日吉芳朗・日吉南賀子 (2006) 2005年の石川県輪島市におけるアサギマダラのマーキング調査.

翔 (179) : 7-10.

《ひよし よしろう・ながこ 〒928-0001輪島市河井町1部64-1》

スナビキソウの燃えがらをなめるアサギマダラ

松 井 正 人

雨上がりの海岸で、多数のアサギマダラがスナビキソウの燃えがらに口吻をのぼしているのを観察したので報告する。

2006年5月20日 石川県羽咋郡志賀町増穂浦 松井正人目撃

飛翔1♂、花に飛来3♂、燃えがらに飛来35♂

増穂浦は、砂浜の幅も広く長さも有る海岸で、波打ち際から離れると海浜植物に覆われている。チガヤ原もあり、この中にはポツポツとスナビキソウも生えている。

いつ燃やされたのか5月20日には、チガヤ原の一部が燃えており、近づくときアチコチからカサカサと音が聞こえてきた。チガヤの燃えがらの中を、たくさんのアサギマダラが飛び交い、羽ばたくときチガヤの燃えがらに羽が擦れて音を立てていた。スナビキソウの燃えがらに止まり、盛んに口吻をのぼしているアサギマダラもいた。アサギマダラは全て♂で、スナビキソウの燃えがらの表面にある何かを、なめているように思われた。

アサギマダラを含むマダラチョウの♂は、性成熟するためにピロリジジンアルカロイドを必要とし、アサギマダラが好んで集まるヨツバヒヨドリやミズヒマワリの花には、これが含まれている(本田・本田、2007)。また、多くのマダラチョウの♂は、ピロリジジンアルカロイドを枯葉、茎、根などからも摂取することが知られている(本田・本田、2007)。

スナビキソウの体内にもピロリジジンアルカロイドが含まれ、燃えた後の雨で体表面に滲み出し、アサギマダラが摂取しやすい状態になったのではないかと思われる。

《 参考文献 》

本田計一・本田保之(2007)アサギマダラの繁殖を支える植物. 昆虫と自然(548):15-18.



図-1. 5月6月は人影もまばらな増穂浦海水浴場
場所によってはチガヤ原が広がり、
燃えた部分の色が違っている



図-2. チガヤの燃えがらがジャングルのように広がる中で
スナビキソウの燃えがらに口吻をのばすアサギマダラ



図-3. スナビキソウの燃えがらに口吻をのばし
表面をなめるアサギマダラ

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

金沢市でオオムラサキの幼虫を採集

浅野直樹

2006年から2007年にかけては記録的な暖冬で、積雪は無く好天続きで、オオムラサキの越冬幼虫採集日和が続いた。そこで、石川県金沢市の浅野川上流方面で、エノキのあるところを片っ端から調査したが、オオムラサキはなかなか見つからず、ゴマダラチョウの幼虫ばかりが見つかった。

ゴマダラチョウしか見つからなかった場所は、ほとんど記録しなかったもので、オオムラサキの幼虫を採集した場所と、ゴマダラチョウの幼虫を観察した場所の一部について報告する。

2006年11月28日	金沢市北袋町	ゴマダラチョウ 3幼、オオムラサキ 3幼	浅野直樹
2006年12月 2日	金沢市上中町	ゴマダラチョウ 3幼	浅野直樹
2006年12月 5日	金沢市小菱池町	ゴマダラチョウ 8幼、オオムラサキ 2幼	浅野直樹
2006年12月 5日	金沢市中山町	ゴマダラチョウ 5幼、オオムラサキ 1幼	浅野直樹
2007年 1月11日	金沢市上山町	ゴマダラチョウ 5幼	浅野直樹

《あさの なおき 〒920-0942 金沢市小立野2-26-7》

金沢市角間町周辺での1999年以降のオオムラサキの記録

大脇 淳

2007年1～2月の冬は記録的に雪がなく、オオムラサキの越冬幼虫が簡単に採集できるため、オオムラサキの幼虫採集がつかのま？のブームになっているという噂を聞いた。そこで、このブームに乗じて、1999年以降の石川県金沢市角間町や金沢市俵町周辺におけるオオムラサキの観察記録を報告する。

1999年12月	金沢市戸室別所	越冬幼虫観察	大脇 淳
2001年 7月28日	金沢市田上新町	1頭目撃	大脇 淳
2002年 8月13日	金沢市田上新町	2頭目撃	大脇 淳
2003年 7月28日	金沢市戸室新保	1頭目撃	大脇 淳
2003年12月	金沢市角間町	越冬幼虫観察	大脇 淳
2003年12月	金沢市鈴見台	越冬幼虫観察	大脇 淳
2005年 7月15日	金沢市俵町	1♀目撃（コナラで吸汁）	大脇 淳

末筆ながら、本報告を書くように勧めて下さった松井正人氏に深く感謝する。

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

石川県能登地方に於けるオオムラサキの近況

松 井 正 人

石川県能登地方に於けるオオムラサキの観察例は少なく、2000年以降の観察例となると、筆者は2例しか知らない。この少ない観察例と最近の調査状況について報告したい。

■奥能登（輪島市、珠洲市、鳳珠郡能登町、鳳珠郡穴水町）

2市2町の中で、輪島市に2箇所、珠洲市に1箇所の観察地が知られている。

輪島市では、1965年から1975年にかけての高洲山と、1975年の下山町細田に観察記録がある（日吉・他、1999）。1999年から石畑正夫氏や日吉芳朗氏等によって、高洲山周辺で調査されている（日吉・他、1999）が、その後の観察例は無い。

珠洲市東山中では、1975年に成虫が採集され（松枝、1976）、1990年に越冬幼虫が観察されている（松井、1994）。筆者は、1998年から2001年にかけて、成虫調査を実施したが観察できず、2004年からは、日吉宏朗氏等によって、越冬幼虫調査が行われているが観察されていない。

■中能登（七尾市、羽咋郡志賀町、羽咋郡中能登町）

1市2町の中で、中能登町の石動山周辺に観察地が知られ、1965年には雌雄の成虫が観察され（尾田良知、私信）、1989年には越冬幼虫が観察されている（松井、1994）。筆者は、2003年に越冬幼虫調査を行ったが、観察できなかった。

■口能登（羽咋市、羽咋郡宝達志水町）

1市1町の中で、宝達志水町に2箇所の観察地が知られている。

筆者は、1990年から2001年にかけて、宝達志水町当熊で越冬幼虫や成虫を観察し、1990年には、宝達山のふもとで越冬幼虫を観察している（松井、1994）。しかし、どちらの観察地も、その後の観察例は無い。

この6箇所が、能登地方に於けるオオムラサキの観察地で、観察記録は、奥能登が1990年まで、中能登が1989年まで、口能登が2001年までと、古いものが多い。オオムラサキが少ない地方で、最近は更に減っていると思われるが、オオムラサキ以上に観察する眼が確実に減っている。観察する眼を増やすことによって、観察例を増やしたい。

《 参考文献 》

日吉芳朗・日吉南賀子（1999）輪島市高洲山周辺でのスギタニルリシジミとオオムラサキ探索の顛末記. 翔（141）：3-6.

松枝 章（1976）珠洲市の動物（昆虫類）. 石川県珠洲市史・第1巻：349-368.

松井正人（1994）石川県のタテハチョウ8. 翔（106）：3-8.

松井正人（2000）羽咋郡志賀町でオオムラサキの飛翔を観察. 翔（146）：1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■1月19日石川むしの会と合同新年会

金沢駅前「かじ亭」で、合同新年会を開催。虫好き20人が、あふれるご馳走と飲み放題のアルコールに、満面の笑顔で歓談した。

■オオムラサキの幼虫採集でとんだ災難

枯葉をビニール袋に詰め、暖かな自宅でのんびり幼虫を探していた浅野氏、袋を開くと異様な香りが漂い、手を入れるとヌルリとしたものに触れた。「ウ、ウンチだ」。寒い野外では匂わなかったが、暖かな室内では強烈に匂った。

■トゲナナフシを1月30日に観察

雪が積もる例年は、12月か1月初旬で観察が途絶えるが、今年は観察が続いている。暖冬は、全ての生き物が過ごし易いようで、今年はいろんな虫が大発生しそうだ。

■なまり色の空

冬の北陸は、毎日雲が低くたれ込め、いつ夜が明けたのか分からない。お日様が顔を出しても、流れる曇に見え隠れし、日差しと降雪が繰り返えられる。ところが、今年「晴」の日が多く、金沢の1月の日照時間は、平年より22時間も長い83時間。

■金沢で1月の降雪、積雪ともにゼロ

記録的に雪が少ない北陸地方、金沢では観測史上始まって以来のゼロ記録。平年では、1月に150センチ前後の降雪がある。平均気温は、1.4度も高い5.1度だった。

■鳴き声CD付き沖縄セミ図鑑

沖縄のセミ19種の生態写真に、鳴き声CD付き。単唱と合唱が収録され、耳をかたむけるだけで沖縄の島めぐりができる。

■魚類学会が、差別用語を含む和名を改名

日本魚類学会は、「メクラ」や「オシ」など差別的な言葉を含む魚の和名を改名する。九つの語を差別的と判断して32種を改名し、同様の語が含まれる「科」や「属」などの名前も変更する。

■2月13日金沢で梅が開花

雪が降らないお日様キラキラの今冬、何もかもが異例づくめで、梅が平年より20日も早く開花した。昨年の開花は、3月18日なので、33日も早い。

■卯辰山境界で越冬トゲナナ調査

百年に一度と言われる異常な陽気が続く中、トゲナナフシが越冬したかもしれないと、2人のトゲナナモドキは卯辰山境界を探索しているが、2月に入ってトゲナナは見つかっていない。

■アオマダラタマはゲットしたものの

2月24日浅地氏、粟津温泉周辺でアオマダラタマを30ほどゲット。勢いに乗って翌日はクロマダラを狙ったがボツった。アオマダラのソヨゴを探すのに苦労はないが、クロマダラのエノキは平地、丘陵に多く、管理の手も入り易くて、おいしい材も処理されているものが多いとか。

■昆虫館でファン染め教室

大きくてフワフワ飛ぶオオゴマダラは、昆虫館きっての人気者。この人気者のファンを使った染め物教室が昆虫館で行われた。サクラを食べるメスアカのファン染めをお願いしたこともあるが、いかんせん、必要な量のファンが集まらなかった。

■ 2月からスタートした初ギフ調査

ギフチョウの微笑に魅入られた面々、とびっきりの暖冬に2月から初ギフ調査を開始したが、3月4日現在、テングヤルリタ、キタテハなどの越冬組しか観察できない。

■ 奥能登へヤゴ採りに出かけたが

3月4日、ギフチョウに未練を残しながら、奥能登へヤゴ採りに出かけた松井・浅地の花粉症コンビ。サナエやムカシトンボを観察した小川は、全てスギ林の中。帰宅後に重装備を解くと、じわりじわりと花粉の怖さが現れ始めた。

■ 3月14日気象庁発表、桜の開花予想

金沢は4月1日と、平年よりわずかに5日早い程度。観測史上初めてとか、百年に一度とか、「暖冬」が騒がれた割りには、ここに来てスピードが鈍った。

■ 冬將軍の意地

ギフチョウ初飛の秒読みが始まろうとした3月6日から雪が降り始め、冬に逆戻り。寒い日が続く、20日になっても雪が降る。

■ 1番ギフは微笑んだものの

春分の日には朝から快晴。「今日をにおいて外に無し」と、初飛観察に出かけたオジサン達。M、M、S、Iと徐々に現地入りしたが、姫に出会えたのはMひとり。

■ 例会の記録 ■

2月8日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、てっちゃんのトンボ教室。標本や生きたヤゴを見ながら、種や♂♀の見分け方から成長過程などの生態までを、生き生きと語る浅地氏だった。

その他の話題は、クロコムラが採れない、屋内で越冬するムラサキツバメ、2月にギフチョウの初飛は見られるか、単位生殖するクワガタ、金沢はトゲナナの北限か、緑色で羽化するクロイワゼミ、ムカシトンボを見に行こう、などなど。

参加は、井村、松井、浅地、浅野、細沼、大脇、勝海の7人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

日吉芳朗・日吉南賀子：2006年の石川県輪島市における アサギマダラのマーキング調査	1
松井正人：スナビキソウの燃えがらをなめるアサギマダラ	5
浅野直樹：金沢市でオオムラサキの幼虫を採集	7
大脇 淳：金沢市角間町周辺での1999年以降のオオムラサキの記録	7
松井正人：石川県能登地方に於けるオオムラサキの近況	8
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	9

翔

185号

Tobu

2007年4月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121

☎076-258-2727

郵便振替

00750-8-562

印

刷

小西紙店印刷所

